

平成 27 年 2 月 16 日

女子体操競技情報 22 号

(公財) 日 本 体 操 協 会
リオデジャネイロオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部
審判委員会女子体操競技審判本部

日本体操協会では、リオデジャネイロオリンピック強化委員会女子体操競技強化本部による 2015 年強化指針と審判委員会女子体操競技審判本部による 2015 年採点指針、国内内規および FIG からの採点規則の変更、修正等をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

2015年 強化指針

リオデジャネイロオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部長
塚原 千恵子

全体として

2015年10月に開催される第46回グラスゴー世界選手権大会はリオデジャネイロオリンピックの団体予選大会であり、8位入賞を果たし団体出場権を確保することが第一優先課題となる。

昨年の南寧世界選手権大会で団体予選において強豪国のルーマニアを上回り、目標点220点を超える221.360点を獲得した。ゆかの大過失一つで抑えたチームの安定感は評価したい。しかし決勝の平均台では、一つの大過失と得点の伸び悩みが目立ち、165.422点で目標の5位には及ばず8位となった。個人総合は寺本選手が平均台で落下が影響し18位、笹田選手は大きなミスはなかったものの20位であった。種目別では唯一、寺本選手が平均台に残り、ミスのない演技だったが4位に終わった。それぞれの選手が実力を発揮した大会であったが、リオデジャネイロオリンピックに向けて多くの課題を残した大会となった。

中国に6.693点の大差をつけて優勝した米国の圧倒的な強さは、技術とパワー、そして安定感にあふれていた。今後の女子体操の目標となるだろう。

現状では米国・中国・ロシアの強豪国には及ばないものの、グラスゴー世界選手権大会ではライバル国のイタリア・ルーマニア・オーストラリア・イギリス・カナダ・ブラジルとの競い合いが予想される。オリンピック前年の世界選手権大会は、各ライバル国が一気に競技力向上を図ってくることが予想されるので現状に甘えている時間はない。日本は早急な競技力向上が求められる。

グラスゴー世界選手権において8位入賞を確実なものにするためにはまず、チーム全体のDスコアのアップが急務である。日本女子チームの演技は、総体的に難度の低さが目立つ。各種目のDスコアアップにより、14点台に乘せられる演技がチームに2人は必要であろう。さらにE難度・F難度への挑戦に、チームをあげて臨まなければならない。

しかし、Eスコアのレベルアップも忘れてはならない。チーム8.5点以上のE得点を目標としたい。美しさは体操競技の原点であり正確な基本技術、芸術的な表現力は女子体操の基本であり、日頃の基礎練習の強化は怠ってはならない。個人・種目別の強化にも通じる課題であり、現状の日本女子体操に見逃されているように思う。国際大会における審判員は、この点に厳しい評価をしている。

その国の競技レベルは、その国の審判レベルと同等であるといわれている。採点結果は、選手の練習目標となり強化指針となる。つまり、審判はすべての強化の指針となるのである。審判本部との連携を図り、目標に添った正しい指針のもとに目標達成のための強化を図っていききたい。

跳馬

- ・D スコア 5. 8 点以上の跳躍
- ・着手時の肘の曲りや脚の乱れなどの姿勢欠点のない演技
- ・高さと距離を伴うダイナミックな演技
- ・高い姿勢での着地と安定性

段違い平行棒

- ・基本技術の姿勢不良（身体の反り、肘の緩み、脚の乱れ）の修正
- ・倒立局面の角度（10 度以内）の徹底
- ・空中局面を伴う技の高さ、回転の不足、空中姿勢
- ・組み合わせ点でD スコアアップの工夫
- ・高い姿勢での安定した着地
- ・終末技はD 難度以上

平均台

- ・ふらつきのない安定した演技
- ・つま先、ひざが伸びた脚のラインと体線の美しさ
- ・芸術性豊かな美しい姿勢
- ・跳躍技の高さ、開脚度（180 度以上）の正確な実施
- ・D 難度以上のターンの正確な実施
- ・アクロバットの高さと姿勢、安定した実施
- ・高い姿勢での安定した着地
- ・終末技はD 難度以上

ゆか

- ・アクロバット系の技は、D 難度以上の技と組み合わせの工夫
- ・アクロバットの高さ・スピード・姿勢欠点のない演技
- ・高い姿勢での両脚をそろえた安定性のある着地
- ・ダンス系は規定された姿勢や正確な実施
- ・顔の表情も含めた芸術的な動きによる演技
- ・D 難度以上のダンス系の工夫
- ・終末技はD 難度以上

2015年 採点指針

審判委員会女子体操競技審判本部

全体として

2014年南寧世界選手権において、日本選手は競技会全体でミスを最小限に抑え、安定感のある確実な演技と欠点の少ない技の実施で、団体決勝、個人決勝、種目別決勝に進出を果たし、日本選手の競技力の強さを見せることができた大会となった。しかし、今大会予選通過を逃した国においても高いDスコアを有し、予選通過の力を十分備えている国は多く、北京オリンピック以降、団体決勝に進出し続けている日本チームであるが、来年の世界選手権で団体8位以内に入りリオデジャネイロオリンピックの切符をつかむことは、現段階で確実なものではなく安心できる状況ではないと痛感した。今後、日本全体としてDスコアを高めること、欠点のない質の高い演技を実施することはどちらも重要な課題となる。

ただし、Dスコアの向上を目指し、高い難度の技に挑戦していくことは必要不可欠であるとはいえ、高い難度の技に挑戦するが故に日本選手の持ち味である「美しい体線での演技」を失ってしまえば質の高い演技には相反する結果を生むこととなる。これまで重要な指針としてきた「常に美しい体線での演技」を追求していくことは、日本選手の一番の持ち味をより際立たせ、より質の高い演技を求めるものであり、これまで同様採点における最重要項目としていきたい。姿勢欠点のある実施や技術に反した欠点を伴う実施に対しては、採点項目に則り明確な減点をし、欠点のない美しい姿勢での演技を高く評価したい。

さらに、どの種目においても着地および着地姿勢に対しては実施によって大きな減点が伴うため、高い着地姿勢による安定した着地が望まれる。特にゆかにおいては、必然的に着地に対する減点のチャンスが多くなるため、アクロバット系の技、ダンス系の技、共に正確で熟練された実施を望みたい。採点においては、一つ一つの技の理想像、目標値を常に念頭に置き、理想とされる実施であるかそうでないかをよく見極め減点をしていきたい。

また、日本選手は、世界の上位選手と比べると力強さや技の大きさ、ダイナミックさに欠けている点や、芸術性についても表情が乏しく感じられ、内面からわき出るような表現力を審判員に印象づけることができなかったように思う。ダイナミックな技の実施とともに、表情が豊かで、見ている人を魅了するような表現を目指して欲しい。

以上のようなことから、これらのことが満たされた演技と、そうでない演技に明確な差を付けるために国内内規を適用する。

【国内内規】

①2015 年度国内すべての大会に適用

採点規則 第 8 条 一般欠点と減点表

ー演技全体を通してスピードと迫力に欠ける ー 0.10 / 0.30

②2015 年度以下に示す大会に適用

全日本体操競技選手権大会（個人総合選手権、種目別選手権、団体選手権）
NHK 杯
全日本ジュニア体操競技選手権大会（1 部）
全日本学生体操競技選手権大会
全日本シニア体操競技選手権大会（1 部）

第 11 条 段違い平行棒、第 12 条 平均台、第 13 条 ゆか

ー高得点を得るための前向きな演技構成

- ・終末技 C 難度以下 ー 0.10
- D 難度以上 + 0.10

・演技全体で組み合わせ点を獲得できる組み合わせを実施 + 0.10 / 0.30

補足：演技全体で組み合わせ点を獲得できる組み合わせを複数実施した場合に +0.30
加点とする。大過失が伴っていてもその構成に対して加点が与えられる。

各種目

跳馬

【指針】

- ー高さ・距離を伴うスピード・迫力のある実施。
- ー着地の体勢が高く、安定した着地。
- ーどの局面においても欠点のない美しい姿勢での実施。

【採点上の留意点】

- ースピード・迫力に欠ける跳躍については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける ー0.10/0.30」を有効に使って明確に差をつける。
- ーそれぞれの局面において姿勢欠点が見られる演技については、第 10 条「種目特有な実施減点」の減点項目に併せて第 8 条一般欠点「一技と跳躍（跳馬）での姿勢と脚の位置」の減点項目を有効に使い、欠点のある演技とそうでない演技との差を明確につける。

段違い平行棒

【指針】

- ―肘の曲がり、膝やつま先の緩みのない美しく伸びた体線での実施。
- ―演技全体を通してスピードや迫力のある実施。
- ―空中局面を伴う技の大きさと、ひねりを伴う技の正確な実施。
- ―多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できるなど高得点を得るための前向きな構成。
- ―終末技の高さある安定した着地。

【採点上の留意点】

- ―スピード・迫力に欠ける演技については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける ー0.10/0.30」を有効に使って明確に差をつける。
- ―け上がり、振り上げなどの基本技術の姿勢においても注視し、各技の欠点については、その都度個々に減点する。
- ―上記指針の内容に対し、問題のある演技に対しては、第8条の一般欠点と減点表の減点項目と第11条段違い平行棒「種目特有な実施減点」を有効に使う。

平均台

【指針】

- ―技の実施だけでなく、立ち姿勢や動きも含め、常に美しい姿勢での演技。
- ―アクロバット系、ダンス系の技の正確な実施。
- ―リズムとテンポの変化があり、メリハリのある多様な動きと手先足先までコントロールされた表現豊かな演技。
- ―多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できるなど高得点を得るための前向きな構成。
- ―終末技の高さある安定した着地。

【採点上の留意点】

- ―スピード・迫力に欠ける演技については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける ー0.10/0.30」を有効に使って明確に差をつける。
- ―上記指針の内容に対し、問題のある演技に対しては、第8条の一般欠点と減点表の減点項目や第12条平均台「芸術性と振り付けの減点」「種目特有な実施減点」を有効に使う。

ゆか

【指針】

- ―技の実施だけでなく、立ち姿勢や動きも含め、常に美しい姿勢での演技。
- ―アクロバット系、ダンス系の技の正確な実施。
- ―スピードや迫力を感じさせる雄大な実施と演技面を大きく使用した躍動感のある演技。
- ―選手の個性にあった振り付けと音楽の調和、顔の表情も含め全身を使った表情豊かで魅力的な演技。
- ―多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できるなど高得点を得るための前向きな構成。
- ―高さのある安定した着地。

【採点上の留意点】

- ースピード・迫力に欠ける演技については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける -0.10/0.30」を有効に使って明確に差をつける。
- ー上記指針の内容に対し、問題のある演技に対しては、第8条の一般欠点と減点表の減点項目と第13条ゆか「芸術性と振り付けの減点」「音楽性」「種目特有な実施減点」を有効に使う。

【採点規則の修正の通知について】

①平成25年4月25日付「FIG 通達による採点規則修正版の通知」について

- ・「6.採点規則集修正版による国内対応」については、今年度以降は適用せず、採点規則通りといたします。従って、平均台の着地用補助マットを移動することは認められません。（移動した場合は、規則通りの減点となります）

補足：開始技と終末技を同じ台の端から実施することは可能だが、着地用補助マットを移動することは出来ない。

②平成25年12月30日付「2013 体操競技女子採点規則修正の通知（2014年1月版）」について

- ・跳馬について
 - （イ）「もし選手が、助走を全く試みなかった場合、“得点なし”とみなし、順位も出ない。
“得点なし”：
 - ・助走をしなかった
 - ・立ったまま跳躍台や跳躍板に触れる、または審判員に挨拶する

【以下の内容に変更】

- ・跳馬について
 - （イ）もし選手が、跳躍を全く試みなかった場合、“得点なし”とみなし、順位も出ない。
「跳躍を試みない」とは、
 - ・演技台、助走路に姿を見せない。
 - ・立ったまま跳躍台や跳躍板に触れ、審判員に挨拶する。

補足：跳躍を試みなかった場合に“得点なし”となるため、距離の長短に関わらず、跳躍を試みようとする助走なのか、そうでないか見極め、跳躍を試みる助走でない場合“得点なし”と判断する。跳躍を試みようとしたが、跳躍できずに跳躍台や跳躍板に触れた場合は採点規則通り無効(0.00)となる。
なお、国内の競技会においては、主催の各連盟によって対応が異なるため、各競技会の対応を確認してください。

【2013 FIG 採点規則の変更、修正、追加】

* 以下に記載されていない変更はページ差し替え参照

頁	章 節	変 更 前	変更後
P4	2.4 条 減点 左側ページ 5 行目～	a) 第2章および第3章に示された行動に関する違反の減点は、中欠点または大欠点となる； 行動に関する違反は－0.30、器械器具に関する違反は－0.50 これらの減点は必要があれば上級審判部へ通知し、審判長または D 審判員によって最終スコアから減点される。	【赤字部分変更】 a) 第2章および第3章に示された行動に関する違反の減点は、中欠点または大欠点となる； 行動に関する違反は－0.30、器械器具に関する違反は－0.50 これらの減点は <u>D 審判団から報告された場合、審判長によって最終スコアから減点される</u>
P 19	7.4.1 直接 の組み合わせ と間接の組み 合わせ 右側ページ	直接の組み合わせとは、技が以下のような実施なしに行われたものをいう： a) 技と技の間に躊躇や止まり b) 技と技の間に余分なステップ c) 技と技の間で足が台に触れる d) 技と技の間でバランスを失う e) 2 つ目の技のために踏み切る前の 1 つ目の技の脚／腰の曲げ伸ばし f) 技と技の間で余分な腕／脚の振り	【赤字部分 変更と追加】 直接の組み合わせとは、技が以下のような実施なしに行われたものをいう： <u>a) 技と技の間に止まり</u> b) 技と技の間に余分なステップ c) 技と技の間で足が台に触れる d) 技と技の間でバランスを失う e) 2 つ目の技のために踏み切る前の 1 つ目の技において <u>明らかな</u> 脚／腰の曲げ伸ばし f) 技と技の間で余分な腕／脚の振り
P 23	8.3 一般欠点 と減点表	【D 審判団から上級審判部へ通知し審判長によって最終スコアから減点】 一許可なく競技場を離れるまたは競技終了までの競技場へ戻ることにする違反	【赤字部分変更】 <u>競技場から離れたことで競技が完了できない</u>
P 24	8.3 一般欠点 と減点表	【計時審判員から書式通告による D 審判団の減点】 最終スコアから	【赤字部分追加】 最終スコアから <u>(計時審判員からの通告を受けて)</u>
P 24	8.3 一般欠点 と減点表 上から 10 行目	【計時審判員から書式通告による D 審判団の減点】 一赤ライトの点灯中に演技を開始する	【赤字部分追加】 赤ライトの点灯中または <u>合図がないのに</u> 演技を開始する

P 26	9.2 平均台 とゆか 左側ページ 19行目	ダンス系の技のひねりの承認 ● ひねりは正確に完了されなければならない。 ● 肩と腰の向きで決定され、そうでなければ難度表にある異なる技となる。	【赤字部分追加】 ダンス系の技のひねりの承認 ● ひねりは正確に完了されなければならない。 ● 肩と腰の向きで決定され、そうでなければ難度表にある異なる技となる。 ゆか：ひねりを伴うジャンプ、ホップ、リープの技が、難度表にある他の技に直接組み合わされた場合、最初の技が正確にひねりを完了しなくても、その次の技へ続けることができた場合は、その技の難度価値は下がらない、または難度表にある他の難度になることはない。
P 28	9.3 ダンス系の技での特別な要求の抜粋 左側ページ 5行目	輪とび（リープ）／脚交差した前後開脚からの輪とび（ひねりを伴う／伴わない） 承認要求： <u>D 審判団</u> ・後ろ足が肩より低い／または前脚が水平より下 －1つ下の難度	【赤字部分変更】 輪とび（リープ）／脚交差した前後開脚からの輪とび（ひねりを伴う／伴わない） 承認要求： <u>D 審判団</u> ・後ろ足が肩の高さ／または前脚が水平より下 －1つ下の難度

【採点規則集の補足説明】

第2章 1条

選手の権利

ゆか：少なくとも演技の半分が実施され音楽が止まった場合、選手が演技を続ければ審判は音楽が止まっている状態で実施された演技部分の音楽や芸術性の減点は適用しない。

第8章

着地での欠点

跳馬／ゆか

ライン減点：

－選手の片足が境界線の外側へ踏み出た後、境界線の内側へ戻し、その後再び同じ足もしくは別の足が外側へ踏み出た場合 －0.20 （－0.10 の減点が2回）

－境界線の外に膝がついた場合 －0.30 （身体の一部が踏み出る）

平均台：

－選手が、平均を保つための余分な動き（-0.50 の減点）の後、平均台をつかんだ場合（-0.50 の減点）、減点は最大-0.50 のみ。

－選手が、平均を保つための余分な動き（-0.50 の減点）または深いしゃがみ立ち（-0.50 の減点）の後、余分なステップ（-0.10+ -0.30 の減点）がある場合、減点は最大-0.80 のみ。

平均台／ゆか：

ーしゃがみ立ちでのターンのあと、バランスを崩したり、座ったり倒れてしまう場合、
バランスの欠如 -0.10/0.30 の減点を適用

第 12 章：

片足踏み切り前後開脚とび、または前へ脚交差した前後開脚とび+アウエルバックハ宙返りの
組み合わせ：

組み合わせ点を得るためには、浮脚を後方へ振り戻してはならない。

2.4 条 減点

- a) 第2章および第3章に示された行動に関する違反の減点は、中欠点または大欠点となる；
行動に関する違反は－0.30、器械器具に関する違反－0.50
これらの減点は**D審判団から報告された場合、審判長によって最終スコアから減点される。**
- b) 減点の一覧表は8. 3条にも示されている。
- c) 特に記載されている場合を除き、これらの減点はD¹審判員によって演技の最終スコアからされる。
- d) 違反が悪質な場合、選手またはコーチは特別なペナルティーとして競技会場から退場させられることもある

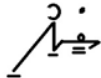
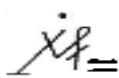
行動に関する違反 D審判団の報告により上級審判部が減点	
違 反	ペナルティー
服装違反 ・不適切あるいは美的でないパット使用 ・自国のマークが付いていない ・ゼッケンが付いていない ・不適切な服装 –レオタード、装飾類、 包帯の色	0.30 選手/当該種目の最終スコアから (その競技の間1回のみ-上級審判部)
団体競技に適用される服装規定の違反 ・レオタードが同一でない(同じチーム の選手)	1.00 競技 I , IV 各競技の発覚した最初の種目から 1回-上級審判部
演技後再び演技台に上がる	0.30 上級審判部が最終スコアから
不当に演技台にとどまる	0.30 上級審判部が最終スコアから
規律なく乱暴な行動をとる	0.30 上級審判部が最終スコアから
広告違反	0.30 上級審判部によって当該種目の最終 スコアから 広告表示に関して要請があれば ・チーム ・選手(個人)
表彰式に参加しない	チームおよび個人の成績、最終スコアは無 効(上級審判部によって)

器械器具に関する違反	
違反	ペナルティー
不適切なマグネシウムの使用、または 器械器具の損傷	0.50 上級審判部によって最終スコアから
跳躍板のスプリングの配列を変える、 または取り外す	0.50 上級審判部によって最終スコアから
許可なく器械の高さを変える	0.50 上級審判部によって最終スコアから

2.5 選手宣誓(FIG 競技規則 7.12.2)

「私は、すべての選手の名において、我々がこの大会を律するルールを尊重し、これを守り、ドーピングを行わず、また薬物を使用せず競技に全力で取り組み、真の意味でのスポーツマンシップにおいて、スポーツの栄光とチームの名誉のためにこの大会に参加することを宣誓いたします。」

【新技】2014 年第 2 回ユースオリンピック、2014 年第 45 回世界選手権における新技

種 目	No.		難度	シンボルマーク	U R L
U B	3. 402	高棒懸垂～前振り出し 1/2 ひねり低棒とび越し～低棒倒立または 1/2 ひねり	D		https://www.youtube.com/watch?v=dfZNFUmGUxU
B B	1. 103	台を支持して踏み切り、手支持で 3/4 ひねり～縦向きに大腿部で座	A		https://www.youtube.com/watch?v=PaZVwZLs0SE
	1. 204	台の横へ、後ろ向きで両足踏み切り、開脚屈身姿勢で台をとび越し正面支持	B		https://www.youtube.com/watch?v=emkUDTon0uw
	1. 215	台の横へ、側方開脚伸身宙返り～正面支持	B		https://www.youtube.com/watch?v=xP5nBex9F3A
	4. 208	台の下をつかみ、開脚屈身姿勢で横転、座の姿勢へ	B		
	5. 512	片足踏み切り、側方かかえ込み宙返り 1/2 ひねり、横向き着台	E		https://www.youtube.com/watch?v=3pJ64Ch-AIM
F X	1. 409	両足踏み切り、前後開脚とび 1 回ひねりから輪 (もし、ひねりが正確に完了しなかった場合、両足踏み切り、前後開脚とび 1/2 ひねりから輪(B)と判断される)	D		https://www.youtube.com/watch?v=BjCZkJn4mPc
	2. 503	180 度開脚した浮脚の上方をターンの始めから終わりまで手で保持した 3 回ターン	E		https://www.youtube.com/watch?v=PXS1NkmG09E

		A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700
1. ↑	01	L L						
	02	U U	EL					
	03	K K	LE E					
	04	J J	J J	J				
	05	J						
	06	J	J J	J				
	07		J J	J J	J			
	08		J J	J J	J J			
	09				J J	J J		
	10		J J	J J	J			
	11				J J	J J		
2. !	01	J	J J J	J	J			
	02		J J	J J				
	03			J J	J J	J		
	04	O			J J			
	05	O a.		J J	J J	J		
	06			J J	J J	J J	J J	
	07			J J				
3. .	01		J J J	J	J J J			
	02				J J J	J		
	03				J J J	J J J		
	04			J	J	J	J	
	05				J J J			J J J
	06		J J J	J J	J J J			J J J
	07			J J	J J			
	08			J J	J J J	J J J		J J J
	09			J J J	J J			
	10			J J	J J	J J		

		A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700
4. X	01	⊗	J J	J J J	J J			
	02	⊗		J J	J J	J J	J J	
	03	⊗			J J J	J J J	J J J	
	04	⊗		J J J	J J	J J		
	05			J J	J J	J J		
	06	⊗			J J J	J J J		
	07	⊗			J J J	J J J		
	08			J J	J J	J J J	J J	
	09			J J		J J		
5. V	01	⊗		J J J	J J J	J J J		
	02		J J	J J J	J J J	J J J		
	03			J J J	J J J			
	04	J		J	J J J			
	05	⊗		J J J	J J J			
	06	⊗		J J J	J J J			
	07		J J	J J			J J	
	08	⊗		J J	J J	J J	J J	
	09				J J J	J J J	J J J	J J
6. ↓	01	J J J	J J J	J J J	J J J	J J J		
	02	J J J		J J J	J J J	J J J		
	03			J J J	J J J	J J J		
	04	J J J	J J J	J J J	J J J	J J J		
	05		J J J	J J J	J J J	J J J	J J J	
	06				J J J	J J J	J J J	J J J
	07				J J J	J J J	J J J	J J J
	08	J J J	J J J	J J J	J J J	J J J	J J J	J J J
	09		J J J	J J J	J J J	J J J	J J J	J J J
	10		J J J	J J J	J J J	J J J	J J J	J J J

FIG WTC November 2014

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F-600	G-700
1. 01							
02							
03							
04							
05							
06							
07							
08							
09							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F-600	G-700
2. 01							
02							
03							
04							
05							
06							
07							
08							
09							
10							
11							
12							
3. 01							
02							
03							
04							
05							
06							
07							
08							
4. 01							
02							
03							
04							
05							
06							
07							
08							
09							
10							
11							

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F-600	G-700
5. 01							
02							
03							
04							
05							
06							
07							
08							
09							
10							
11							
12							
13							
14							
6. 01							
02							
03							
04							
05							
06							
07							

		A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600
1. —	01						
	02						
	03						
	04						
	05						
	06						
	07						
	08						
	09						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
2. ○	01						
	02						
	03						
	04						
	05						
	06						
	07						
	08						

		A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700	H - .800	I - .900
3. =	01									
	02									
	03									
	04									
	05									
	06									
	07									
4. y	01									
	02									
	0.3									
	04									
	05									
5. w	01									
	02									
	03									
	04									
	05									
	06									

段違い平行棒

3.402
高棒懸垂～
前振り出し1/2ひねり
低棒とび越し～低棒倒立
または1/2ひねり

平均台

1.103
台の横に立ち、両足踏み切り、閉脚
入れ、背面支持、または上向き転向
1/2ひねり背面支持

台を支持して踏み切り、手支持で
3/4ひねり～縦向きに大腿部に座

1.204
台の横へ、とび上がり1/2ひねり開
脚浮腰支持、または台の横へ、後
ろ向きで両足踏み切り、開脚屈身
姿勢で台をとび越し正面支持

1.215
台の横へ、踏切板上の手支持によ
る前転とび、背面支持または1/4
ひねりから大腿部に座

台の横へ、前方開脚伸身宙返り、
背面支持、または1/4ひねり、
大腿部に座
または側方開脚伸身宙返り～
正面支持

4.208
左右開脚から開脚伸身で横転（終わりの姿勢は自由）
台の下をつかみ、開脚屈身姿勢で横転、座の姿勢へ

5.512
片足踏み切り、側方かかえ込み
宙返り1/2ひねり、横向き着台

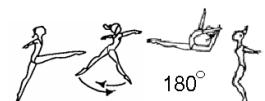
ゆか

1.409

片足踏み切り、または
両足踏み切り、前後開脚とび
1回ひねりから輪



前へ脚交差した前後開脚とび
1/2ひねりから輪



2.503

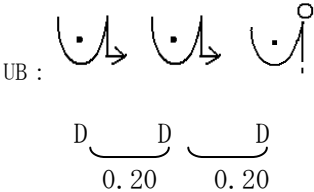
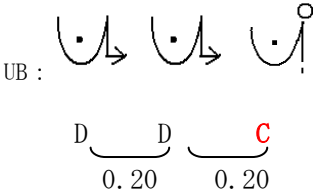
180度開脚した浮脚の上方をターンの
の始めから終わりまで手で保持した
3回ターン



1080°



【日本語版ヘルプデスクの訂正】

頁	章 節	訂 正 前	訂 正 後
P 10	7.4.2 組み合わせ点の為の技の繰り返し 一番下の左側		【赤字部分修正】 
P 14	・ 正確さ（跳馬、段違い平行棒、平均台とゆかのアクロバット系の技のみ）：各 0.10 四角の枠の中	後方伸身宙返り 3 回ひねり（1080°） — もし、両足が正確にひねりを完了できなかった場合： 2 回半ひねり（D）と判断し、正確さ－0.10	【赤字部分追加】 後方伸身宙返り 3 回ひねり（1080°） — もし、両足が正確にひねりを完了できなかった場合： 2 回半ひねり（D）と判断し、 不正確な実施に対して 正確さ－0.10
P 36	9.4.3 ひねりを伴わない回転系の技 E 審判団の角度	倒立からの逸脱： 11 度 — 30 度 0.10 減点 11 度 — 45 度 0.30 減点 45 度より低い 0.50 減点	【赤字部分修正】 倒立からの逸脱： 11 度 — 30 度 0.10 減点 31 度 — 45 度 0.30 減点 45 度より低い 0.50 減点
P 37	9.4.3 高棒から低棒へ倒立する空中局面を伴う技 一番最後の項目	*もし選手が低棒を握り、低棒を越えてその後に落下（ 棒間 ）した場合、次の技に続けることができなくても、難度は与えられる。 採点規則の 9.4.3、ひねりを伴わない回転系の技と高棒から低棒へ倒立する空中局面を伴う技に従う。	【赤字部分修正】 *もし選手が低棒を握り、低棒を越えてその後に（ 低棒の外側 ）落下した場合、次の技に続けることができなくても、難度は与えられる。 採点規則の 9.4.3、ひねりを伴わない回転系の技と高棒から低棒へ倒立する空中局面を伴う技に従う。

【変更規則の修正について】

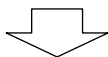
2013 年版採点規則・変更規則について下記の通り修正し、この通知をもって適用といたします。

採点規則集 変更規則Ⅱ (変更)

< 短い演技 >

D 審判員は最終スコアから短い演技の適切な減点をする。

- ・ 6 技以上 = -0.00
- ・ 5 技 = -4.00
- ・ 4 技 = -5.00
- ・ 3 技 = -6.00
- ・ 2 技 = -7.00
- ・ 1 技 = -8.00
- ・ 技がない = -10.00



D 審判員はEスコアから短い演技の適切な減点をする。

- ・ 6 技以上 = -0.00
- ・ 5 技 = -4.00
- ・ 4 技 = -5.00
- ・ 3 技 = -6.00
- ・ 2 技 = -7.00
- ・ 1 技 = -8.00
- ・ 技がない = -10.00

平成 26 年度女子体操競技全国代表審判員研修会 質疑応答

－交差輪とび

Q. 「後ろ足が肩の高さで 1 つ下の難度 -0.10」とありましたが、後ろ足が肩より低い場合、難度承認はどうなりますか？また減点はどうなりますか？

A. D 審判は、後ろ足が肩の高さでも肩の高さより低くても 1 つ下の難度として承認、E 審判は、後ろ足が肩の高さ（それより低い） -0.10 の減点をします。

－中間振動

Q. 棒に足が当たった後、数回スイングした場合、中間振動-0.50 の減点のみか、中間振動-0.50 の減点に足が器械にあたる-0.50 の減点が追加されるのか？

A. 段違い平行棒の演技中、もし、「内容のない振り」「中間振動」の減点が発生した場合、実施減点は追加されないのので、例えば中間振動の際膝曲がりなどの姿勢欠点があっても、棒に足が当たっても中間振動の-0.50 の減点のみとなります。質問の例の場合、足が器械にあたってから中間振動になっても同様に中間振動のみの減点となります。

－平均台 1. 3 1 2（後屈して、脚を水平に保った倒立）

Q. 後屈し、脚が水平に足らず垂直から 45° くらいで静止が見られた場合、C 難度で承認できますか？また静止が 2 秒に満たない場合はどうなりますか？

A. 実施された技に技術的な失敗があった場合（難度表に記載されてある技術要求が満たされない場合）、難度表にある異なる技、または難度なし、または採点規則第 9 章で特別な記載があれば 1 つ下の難度として判断されます。
また、静止が 2 秒に満たない場合は、採点規則第 12 章(p40)姿勢保持系の説明に記載してある通り、もし 2 秒の静止がなく採点規則に別の技としても記載がされていなければ、1 つ低い難度となります。

－平均台 台上での転倒

Q. 平均台の技の着台について、股打ちした場合、（落下していない）減点は-1.0 ですか？

A. 器械上での転倒も、「落下または器械にもたれる -1.0」の減点となります。

－平均台 横向きの動き

Q. 横向きの動きは、どれくらい移動すれば、どれくらい動きを組み合わせれば減点なしとなるか？

- A. 原則は、「移動」を伴う「動き」の「組み合わせ」であること。移動の距離などは規定されていないが、その場での動きではこの条件は満たすことは出来ないので、動きと動きを組み合わせ、その場から少なくとも1歩以上移動することが最低限の条件です。動きの数も規定はないが、組み合わせになるためには少なくとも2つの動きが必要になります。しかし、最低限の条件を満たすだけでなく動きを構成する上で平均台においても明確な動きとはっきりとした移動を組み合わせ、十分に条件を満たせるような構成にすることが望まれます。

－ゆか 組みあわせ点

- Q. 混合の組み合わせ E 宙返り+A ダンス系 +0.10 で使用できる技はジャンプのみか、ターンも使用することができますか？

- A. 採点規則上では、A 難度のダンス系の技の特定の記載はありません。

－ゆか ダンス系の技の承認について

- Q. ひねりを伴うダンス系の跳躍技（ジャンプ、ホップ、リープ）が次の技に続くことができた場合、最初の技は難度は下がらないという説明について、次の技はひねりを伴っていないかともよいのか？

- A. ひねりを伴うジャンプ、ホップ、リープの技が、難度表にある他の技に直接組み合わせられた場合、最初の技が正確にひねりを完了しなくても、その次の技へ続けることができた場合は、その技の難度価値は下がらない。次に続く技にはひねりを伴うか伴わないかの指定はなく、難度表に記載されてある技であればよい。

－ゆか「アクロラインの前の1回より多い両足立ち」

- Q. 両足を前後に少し離して立った後、片足を上げてアクロラインにつなげた場合、「アクロライン前の1回より多い両足立ち」－0.1の減点は発生しますか？一度片足になってポーズをとったが、技に行く前に両足になってしまった場合、減点するのでしょうか？

- A. いろいろなパターンを想定することができますが、まず基本的な考え方として、アクロラインの前でもアクロラインを実施するために止まらず、明確な振り付けになっていることが求められています。質問の最初の例の場合、両足を前後に少し離している姿勢が審判から見て両足で立っていると判断されてしまうのかどうか、その動きが意味のある明確な振り付けになっているのかどうか、主旨を理解して判断することが必要になると思います。2つ目の例の場合も、アクロラインの前に両足で立ち、アクロラインの準備をする姿勢をせず、振り付けの流れからアクロラインに移行することが求められているため、ポーズの後にアクロラインのために両足立ちをしていると判断される実施なのかどうか、実施を見極める必要があると思います。